

## ■令和5年度第4回（第329回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 令和5年10月17日（火） 午後2時5分～午後2時40分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、小川副市長、水道事業管理者  
都市戦略本部長、総務局長、財政局長、保健衛生局長、総合政策監

【議 題】 「さいたま市健康づくり計画」、「第2次さいたま市がん対策推進計画」、「第3次さいたま市自殺対策推進計画」素案について

### < 提案説明 >

「さいたま市健康づくり計画」、「第2次さいたま市がん対策推進計画」、「第3次さいたま市自殺対策推進計画」素案について、保健衛生局から次のような説明があった。

- ・ 本議題は、さいたま市健康づくり計画、第2次さいたま市がん対策推進計画、第3次さいたま市自殺対策推進計画の素案について審議いただくもの。
- ・ 始めに、各計画の位置付けについて説明する。さいたま市健康づくり計画については、さいたま市総合振興計画に紐づく、さいたま市保健福祉総合計画の部門別計画の一つであり、さいたま市ヘルスプラン21の後継となる計画である。本計画は食育推進計画及び歯科口腔保健推進計画を統合し、健康増進法、食育基本法、さいたま市歯科口腔保健の推進に関する条例に基づき策定をするものである。さいたま市がん対策推進計画及びさいたま市自殺対策推進計画は、いずれもさいたま市健康づくり計画の関連計画であり、それぞれさいたま市がん対策の総合的かつ計画的な推進に関する条例、自殺対策基本法に基づき作成・策定する。これらの計画の策定に当たっては、市の上位計画であるさいたま市総合振興計画をはじめ、国、県、市の関連計画との整合を図る。
- ・ 次に、計画期間について説明する。さいたま市健康づくり計画については、令和6年度から令和17年度までの12年間を計画期間としており、令和11年度に中間報告を行う予定である。第2次さいたま市がん対策推進計画及び第3次さいたま市自殺対策推進計画については、令和6年度から令和11年度までの6年間を計画期間としている。いずれの計画も可能な限り、国や県、市の関連計画が見直されるタイミングで、速やかに整合を図ることができるよう、期間を決定している。
- ・ 次に、各計画について説明する。  
(さいたま市健康づくり計画)
- ・ さいたま市健康づくり計画については、令和5年度にさいたま市ヘルスプラン21（第2次）、さいたま市歯科口腔保健推進計画及び第3次さいたま市食育推進計画の計画期間が満了することに伴い、新たな計画を策定する。健康づくり、食育及び歯科口腔

の各分野は、それぞれが密接に関わることから、計画の取組の相乗効果と推進力を高めるため、三つの計画を統合し一体化したさいたま市健康づくり計画を策定する。なお、がん対策推進計画及び自殺対策推進計画については、予防を目的とした健康づくりの観点のみならず、患者やその家族への支援等を含め、対策を推進することから、それぞれ単独の計画として策定する。

- ・ さいたま市ヘルスプラン 21（第2次）は、健康寿命の延伸を目指して、地域とともに、一人一人が健康づくりを基本方針とし、一次予防に重点を置いた8つの分野について取組を推進してきた。その結果、100の目標指標のうち、半数以上が改善している一方、全体の24%が悪化している。目標達成した指標が最も多い分野は歯・口腔の健康であり、悪化した指標が最も多い分野は、栄養・食生活だった。また、65歳の健康寿命は男女ともに伸びる一方、適正体重を維持している人の割合は悪化している。このことから、働き盛り世代を中心に健康づくりへの関心を持つこと、地域で互いに支えながら、自然に健康になれる環境を整えることが今後の課題である。また、健康状態はこれまでの生活習慣の影響を受けることから、人の生涯を経時的に捉えるライフコースアプローチの観点も重要である。
- ・ さいたま市歯科口腔保健推進計画については、ヘルスプラン 21の歯・口腔の健康分野における大目標に当たる「生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上」を基本目標とし、取組を推進してきた。目標指標については達成したものが約半数を占める一方、成人期の口腔状態や高齢者の口腔機能などが悪化している。このことから働き盛りの年代に対しての働きかけや、高齢者の歯と口腔の健康づくりに向けた取組の推進などが課題である。
- ・ 第3次さいたま市食育推進計画については、「さいたま市5つの『食べる』」を目標とし、「朝食」、「共食」、「協働」を重点プロジェクトに位置付けて取り組んできたが、目標を達成した指標は全体の2割弱にとどまっている。バランスのとれた食事については、市民の意識の向上が見られる一方、学齢期における朝食の摂取状況が悪化するなど、食育全体に対する市民の意識は低下しており、今後は更なる情報提供に加え、朝食やバランスのとれた食事を摂取できる機会の創出も課題である。
- ・ さいたま市健康づくり計画は、これら3つの前計画の課題を踏まえ策定するものであり、基本方針は、一人一人に向けた健康づくりから一歩先へ進め、社会全体での持続的な取組を推進するため、「健康寿命の延伸を目指して～社会とつながって、続いていく健康づくり～」とする。
- ・ 分野別目標は、前計画を継承した8つの分野の目標を定めているが、新たに人の生涯を経時的に捉えた健康づくりの観点を取り入れ、年代別の考え方のほか、性別の特性を踏まえ、女性に関する目標も新たに設けている。また、「3 歯・口腔の健康」は、第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画に、「4 栄養・食生活」は第4次さいたま市食育推進計画に位置付けられる。
- ・ 資料の10ページは、これら3つの前計画の評価分析をもとに洗い出した課題と取組であり、11ページから20ページまでは、課題に対する取組の進行を図るために設定した分野別目標指標の主なものを抜粋したものである。共通指標として、健康の意識を向上させるため、「65歳の健康寿命」の延伸と「健康であると意識している人の割

合」を増やすことを目標としている。

(第2次さいたま市がん対策推進計画)

- ・ 前計画では、「市民が互いに支え合い、がんになっても安心して暮らすことのできる地域社会の実現」を基本理念とし、大きく3つの基本方針に沿い、取組を推進してきた。75歳未満のがんの年齢調整死亡率は低下し、48の目標指標のうち、半数以上が、計画策定時から改善しているものの、運動や食生活などの生活習慣に関する指標に悪化が見られる。また、がん検診受診率は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、悪化している。社会全体の動向としては、がん治療と日常生活の両立に当たり、患者個々のライフステージごとに異なった問題が生じているほか、発がんに大きく寄与する因子であるウイルスや細菌の感染予防の取組が求められている。そのため、課題として、がん検診の受診促進、患者のライフステージに応じた支援や、ウイルスや細菌の感染によるがん予防などの取組に加え、若い世代からがんに関する理解を深める取組が必要である。
- ・ 第2次さいたま市がん対策推進計画の基本的な考え方については、前計画から引き継いだ基本理念のもと、基本方針に、予防、医療、がん患者等への支援を支える基盤として、新たに「がん患者が安心して暮らせる社会づくり」を追加した。また、目標と分野別施策については、前計画の課題を踏まえ、「ライフステージに応じたがん対策の充実」、「がん教育の充実」、「ウイルス等への感染対策」といった項目を追加した。これらの施策を、市民、事業者、保健医療関係者及び市が一体となって推進していく。
- ・ 資料23ページと24ページは、前計画の評価及び国の動向等の分析をもとに、洗い出した課題とそれを踏まえた取組であり、25ページから30ページは分野別目標指標の主なもの抜粋したもので、本計画で追加した分野別施策についても、各取組の進行を図るための目標指標を新たに設定している。

(第3次さいたま市自殺対策推進計画)

- ・ 前計画は、国の自殺総合対策大綱を踏まえ、9つの基本目標に基づき、取組を推進してきた。全体目標である令和4年度の自殺死亡率は目標を達成している。また、7つの成果目標のうち、4つの目標は改善傾向にあるが、3つの目標については、割合の数値が減少している。
- ・ 社会的な動向として、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響などにより増加した自殺者は、令和3年度以降減少傾向にあるものの、高止まりが続いており、女性の自殺者数の増加や、若年層の死因の第一位が自殺であることなどが見られる。これらを踏まえた若年層及び女性への支援や、経済・生活面を含む包括的な支援の充実が課題として挙げられる。
- ・ 第3次さいたま市自殺対策推進計画の基本的な考え方については、基本理念として、「いのち支える自殺対策」を全面に、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、前計画のものに、「自殺に追い込まれることなく」という文言を追加した。前計画から引き続き、9つの基本目標に基づいて取組を推進していくが、「自殺に関する実態把握」は、残る8つの基本目標の基礎と捉え、市全体の状況だけでなく、区や地域の特性などを詳細に把握し、情報提供を進めていく。また、若年層、女性、そして経済・生活面といったキーワードについて重点的に取り組んでいく。

- ・ 資料 33 ページは前計画の評価及び国の動向等の分析をもとに洗い出した課題と、それを踏まえた取組であり、34 ページは本計画における目標指標である。全体目標は、令和 10 年度に自殺死亡率（人口 10 万対）を 11.5 以下にすることとしている。
- ・ 最後に、3 計画に係る今後のスケジュールについては、本日の審議結果を踏まえて素案を確定し、12 月に議会への報告後にパブリックコメントを実施する。1 月に最終の計画案について、協議会等へ諮問した後、3 月に策定する予定である。

## ＜ 意 見 等 ＞

- ・ 「さいたま市健康づくり計画」において、基本方針を、一人一人に向けた健康づくりから一歩先へ進め、社会全体での持続的な取組を課題と捉え、自然に健康になれる地域づくりを推進する、と変えたことで、具体的に何が変わるのか。
- 今回の計画の策定に当たっては、人の生涯を幼少期から成人期、高齢者まで一連のアプローチに重点を当てるということを重要視した。また、（女性は、ライフステージごとに身体状態が大きく変化するという特性があるため）女性の健康づくりも非常に重要であることから、ライフコースアプローチに重点を置いて計画の検討を行った。
- ・ 目標指標については、「延ばす」「増やす」という目標値はやめるべきである。例えば、65 歳の健康寿命は、令和 15 年度までに努力しなくても延びると思われるので、「延ばす」では目標にならないのではないか。
- 目標値については、国や県の目標値と同様にしているものもあるが、今回は、一人一人に向けた健康づくりから、地域全体で健康づくりを支えていく、また地域で動機付けをしていくという基本方針のもとで計画の作成を進めており、その中には定量的な目標値の設定が難しいものもある。
- ・ ベースラインとして現状の数値があるので、目標設定はできるのではないか。予算に限りがある中で、目標が明確になっていない事業に予算は費やせない。数字だけが全てではないが、税金を使って事業を行うので、誰が見ても達成状況が分かるような目標を設定し、それを市民に見ていただき、判断していただく必要がある。国や県の目標と全く同じにする必要はない。達成状況を評価できない目標指標なのであれば、別の目標指標を設定するべきではないか。
- ・ これまでの目標指標数値の伸び方から、令和 15 年度まで引き延ばすなどして設定できるのではないか。例えば、さいたま市の 65 歳の健康寿命が全国の中でどのくらいの順位にあり、それをさらに伸ばすという発想で数字を引けば、具体的な数字を出すことができるのではないか。また、健康であると意識している人の割合についても、CS90+運動にそろえて 90%にするのか、もしくは 95%、100%にするのか。過去の数字を見ながら、国や県の状況にこだわらずに考えてはどうか。
- 定量的なものについては、今までの傾向等を見て、数字を出せると思うので、見直しをしていく。一方、定性的な目標指標については、「実施する」という表現にならざるを得ないものがあるかと思うが、併せて見直し検討していく。
- ・ 事業は予算が付けば実施できる。そうではなく、現状をどのように変えていけば、市民に健康を通じた幸せが繋がっていくのかという想いや目標を計画に書くべきで、それが高いか低いかは、担当部局の志の問題である。目標に達しなかった場合、進め

方やアプローチの仕方が良くなかったのか、あるいは工夫が必要だったのかは、目標がないと検証しようがなくなる。目標指標については、全体的に見直していただきたい。

→ ご指摘を踏まえ、目標値について、再度検討する。

#### < 結 果 >

各計画素案の方向性については了承とする。なお、以下の点について対応すること。

- ・ 目標指標については、定量的な目標値を設定するなど、全体的な見直しを行うこと。

#### < 会 議 資 料 >

「さいたま市健康づくり計画」、「第2次さいたま市がん対策推進計画」、「第3次さいたま市自殺対策推進計画」素案について